

第2回 西区まちづくり懇話会 議事録(要旨)
『“人と人とのつながり”ワークショップ』
～西区『地域の宝』ワークショップ part3～

令和元年(2019年)9月29日

西区総務企画課

平成29年度、西区まちづくり懇話会主催で、『西区若者ワークショップ』を開催し、西区の歴史や文化、風景に人物など様々な地域の宝が出され、まちづくり事業に取り込んで実施するなど、大変有意義なワークショップを開催することができた。

このワークショップで海苔やみかんなどの農水産物に田崎市場など西区の『食』にまつわる『地域の宝』が多く出されたことから、30年度は『食』について更に深彫りし、『“食” de “西区をデザイン”するワークショップ』を行い、西区フェスタに取り込んで実施することができた。今回は、『食』とともに多数の意見がでた『人』をテーマとしたワークショップを行い、校区と校区、人と人、子どもと大人などのつながりにスポットをあて、『人』を通じたまちづくりのアイデアを自由に出し合う。

1. 日時 9月29日(日) 9:30 ~ 12:00
2. 場所 西部環境工場管理棟2階大会議室
3. 出席委員 谷川委員、木戸委員、河田委員、日下部委員、坂口委員、今井委員、西村委員、浦本委員、高智穂委員
4. 参加者 49名(委員7名、校区代表35名、団体1名、地域担当職員6名)
校区代表(12校区35名)
池田校区(3名)、小島校区(3名)、池上校区(4名)、城山校区(5名)、城西校区(3名)、高橋校区(1名)、中島校区(6名)、花園校区(3名)、河内校区(3名)、芳野校区(2名)、古町校区(1名)、白坪校区(1名)
団体(1団体1名)
にぎわいづくり実行委員会(1名)
5. 議事要旨
 - ①開会
 - ②西区長 挨拶
 - ③ワークショップ
ファシリテーター:高智穂 さくら 委員

※ 黄色付箋(昔の催し)より青色付箋(現在の催し)が多いのはなぜか。

- ・今の子供の遊びは屋内が多い。よって、何かイベントをしないと子供が外に出ない。
- ・昔は親が子供をかまっていなかった。よって、子供自身が道具も使わず遊びをあみ出

していた。今の遊びは親が関わっている。

- ・とにかく過保護になっている。子供が少なくなって、親が子供をかまいたがる。昔は地域コミュニティネットワークがあって、子供の行動の情報が入ってきていたが、今は情報不足で親が不安になっている。

まちづくりに子どもを巻き込むのは、そのような理由があるからなのか。

(4) これから地域でやってみたいこと（ピンク色付箋）

寺子屋、白川の自然とのふれあい、運動会、宿泊体験、釣り大会、盆踊り、自然体験、まち探検、ウォークラリー、ボール遊び、そうめん流し、花火大会、農業体験、ゲーム大会、スポーツ大会、ダンス大会、カラオケ大会、泥んこ運動会、気球を飛ばす、潮干狩り、熊本のスポーツ選手を招いての大会 等

(5) 各班発表（出た意見の中から上位2つを発表）

- 1班 ①気球に乗ろう～鳥の目になって宝物を探そう～
気球に乗って自分たちの校区を見よう 宝物を見つけよう
②ドローンレース
校区ごとにポイントを設定してリレー形式でレースをやろう
- 2班 ①ギネスに挑戦流しそうめん大会
金峰山の湧水を使い、山の斜面を使って3500メートルのそうめん流し、そのあとミカンやナシを流す（実行委員会形式）
②校区対抗eスポーツ大会
西区内の小・中・高校の校舎の壁面を使っての実施（実行委員会形式）
- 3班 ①無料で食べ歩き
地域の道路を閉鎖し、キッチンカーなどを出す
食べ歩きやダンスなど様々な催しを実施
②無料で親子旅行
親子の交流を目的とする
資金調達は協賛募集、フリマ、メルカリ、廃品回収等
- 4班 ①メリーゴーランド大作戦
校区単位で体育館に円形にイスを並べての子供と大人の交流
②巨大迷路で秘密基地
校区内に基地をつくって地域を回りながらスタンプラリー
- 5班 ①自然体験
農作業体験
みかん、タケノコ、地引網等（ウサギ追いもやりたいがイノシシが危険）
②スポーツ大会
壮大なスケールの缶けり、陣とり、キッズダンス等
- 6班 ①熊本港でeスポーツ大会
各校区で予選をやり決勝を熊本港でやる
その際、各世帯から200円徴収するとともに、スポンサーを募る
②ギネスに挑戦3000千人手持ち花火大会
- 7班 ①白川イベント
白川に触れてもらうイベント
現在古町、白坪、春日で実施している各イベントと合わせてやる

②山と森のイベント

金峰山をはじめとした山々を回り、2つ以上回ると西区名人とする

8班 ①西区の産物を使ってのクッキング

松尾地区の廃校を利用してそれぞれのチームに分かれて料理の腕を競う

題材は郷土料理や地元産のフルーツを使ったもの

②ゲーム大会（eスポーツに限らない）

各地域で予選をやり、熊本港の緑地公園で巨大スクリーンを使って決勝をやる

その際にユーチューバーを招く

(6) ファシリテーター 高智穂委員

本日の話し合いが通常開催の校区のイベントでのヒントになっていけばいいと思う。

各班で話し合いをされているうちに、子ども達の笑顔が浮かんだのではないかな。子どもが笑えば大人が、大人が笑えば子どもがうれしい。地域づくりに取り組む皆さんの笑顔が多くの子どもの参加をうむと思う。いろんな事を子ども達と一緒に企画することが出来てくる。

(7) 講評 <今井会長>

京都出身。親が転勤族で小学校を4校も変わっていて、地域コミュニケーションもなく、地域のイベント、つながりをうらやましい想いで聞いていた。と同時に各グループそういった経験豊富な6人の集まりで、グループディスカッションする事で視野が広がり、おもしろいアイデアが聞かれた。その中でいくつかポイントをあげたい。

- ① 複数のグループで同じ事が出てきた。それはニーズがあることだ。実現可能性があることで、是非実現してほしい。
- ② 子どもが学ぶ機会を付け加えることで、よりいい物になるのではないかな。たとえば、気球・ドローンでは気球の仕組み、ドローンは簡単な物を作るなど体験をした後に飛ばす事で、気球とはなんなのかな、ドローンの仕組み等を子どもが学ぶ。流しそうめんという事では西区にある熊本製粉の工場見学をした後そうめんを食べる。熊本製粉に協賛願えればお金もかからない。このような形になれば、学びにも繋がり、西区の子ども達がより成長出来ればいいと感じた。
- ③ 6班は200円のカンパも含め、非常に具体的なおもしろい提案。今回、まちづくりというテーマの観点からいうと、熊本だけではなく全国的に注目を浴びる事が大事であるから、ギネスにチャレンジという提案もおもしろい。流しそうめん大会は、金峰山は角度がきつすぎないかな、一気に流れないかな、みかんはコースアウトしないかな心配ではあるが、これを3キロで出来ると非常におもしろい。熊本のシンボルの竹を使って流しそうめんは大変だろうが、ぜひ熊本市にも関わって頂き実現してほしい。7班の提案は、目的からの話に共感した。西区の良さを1年を通じて子ども達に見てもらおうというのは、今子ども達は季節感が感じられない中、季節を知れるイベントになればいい。目的からスタートされているのがいい。最後にクッキング。料理の鉄人的アイデア、やり方はいい。郷土料理や西区でとれた物を使ってデザートとか、もしかしたら商品開発に繋がるかもしれない。

今日の提案は、ここで終われば意味がないので、今日はお金のことは考えずと言うことだったが、熊本市に予算をつけてもらう等して是非実現してほしい。それと同時に公募で6班のように具体

化したものを提案していただきコンペをして熊本市が後援をする等したら実現に繋がり会の意味も高まる。

(8) 写真撮影

(9) 閉会